

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	6年 外国語科（10月） 教科書名 Here We Go! Unit 6 This is my town.
③言語活動の充実を目指した授業づくり	東京都三鷹中央学園三鷹市立第七小学校6年担任 今西佑

「相手意識をもって主体的にかかわる児童の育成」
～学ぶ過程を大切にしたい授業づくりを通して～
三鷹市立第七小学校では1～6年生の担任が外国語の授業を行っています。日々の指導で悩みながら指導に当たっていますが、私たちが校内で意識して取り組んでいることを紹介します。

- 英語力に自信がないのに、「聞く」⇒「話す」の授業をどう展開すればいいの？
- 子供たちが自分から話したくなるようにはどうしたら？
- アルファベットの文字はどう定着させる？



1. 「聞く」ことのインプットを大切にする。

「聞く」⇒「話す」⇒「読む」⇒「書く」の流れを大切に、繰り返し聞かせることを意識しています。担任はすべてを英語で話そうとするのではなく、**児童の実態に合った言語材料を明確**にし、何をインプットさせたいかを意識し授業を行うようにしています。Unit6 This is my town.では、担任が自分の出身地の町を紹介したり、学校がある地域でよく行くお店を紹介したりするなど、まずは**担任が「自分のこと」を話す**ことで児童も聞く意欲がぐっと高まります。また、英語を話すことに苦手意識がある担任でも、各Unitの言語材料を意識しながら話すので、無理なく児童にインプットさせることができます。

2. 子供たちが話したくなる発問の工夫

Unit6 This is my town.では、「三鷹の良さを伝えよう！」という最終目標を国語と関連し設定しました。（外国語はALTに対して、国語は地域に発信）しかし、毎時間自分たちが住んでいる町について話すことは、聞く方も話す方も意欲が低下します。そこで We have～. You can～.などの言語材料を定着させるため、様々なバリエーションの発問でやり取りを行いました。**目的・場面・状況を明確にし、子供の自由な発想を大事にする**ことで、児童の自分から話そうとする姿、友達の話を知ろうとする姿が見られています。

例「100年後の三鷹にあると思うもの」「夢の教室にある物を紹介しよう」など

⇒ 日本語で話しても楽しいことは英語でも楽しい！聞きたくなる、話したくなる！そして定着する！

3. アルファベットタイム

中学年、高学年は授業の始め5分間を使ってアルファベットタイムを設定しています。中学年はアルファベットの文字遊び、5年生は読みとなぞり書き、6年生はランダムに書くことを中心に行っています。日頃からの積み重ねがあるので、6年生の1学期終了時には97%の児童が小文字をすべて書くことができていました。高学年には、アルファベットタイムやワードブックを活用しながら、たくさんの語彙に触れる時間も作っています。既習表現を使い、ワードブックの絵を見ながら児童が友達とやり取りする活動も行っています。



指導助言・アドバイスコーナー

本実践には、外国語教育で大切にしたいキーワードが記されています。「まずは担任が『自分のこと』を話す」。子供たちに望む姿を指導者が示すことが大切ですね。指導者が英語を使うことから逃げているのでは、当然子供たちも英語を使うことから逃げてしまいます。「目的・場面・状況を明確にし」。コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にし、子供と共有するからこそ、子供がそれらに応じた内容を思考し、既習表現から取捨選択します。「日頃からの積み重ね」。言葉はすぐに使えるようにはならない、間違いを繰り返しながら身に付けていくものですね。（文科省 直山 木綿子）